

11月議会 本会議質問(11月25日) 田口一登議員

11月議会の個人質問での田口一登議員の質問概要を紹介します。

減税は「構造改革」が目的。生活支援ではなかった 市民は「減税のために福祉の削減」を認めていない

「予算削減ありき」の仕分け

田口一登議員は「事業仕分け」について、市民や市民判定員、市の幹部職員から疑問や批判が相次いでいることを指摘。「廃止」「見直し」「継続」の判定区分はあまりに機械的、利用者や受益者の意見が反映しない、財政負担優先で事業の意義や効果の議論が後景へ追いやられたことなどを批判し、「事業仕分けは『予算削減ありき』の粗雑なやり方だった」と追及しました。総務局長は言い訳するだけでした。

敬老パスを現行通り維持するか

高年大学鯉城学園の学生会やOB会が存続を求めて全会派と市長に要請、女性会館や野外学習センター、敬老パスなどでも存続を求めて請願運動が行われています。特に、敬老パスの『見直し』は市長の公約にも反しています。83歳の女性は「私たちが慣れ親しんできた施設がなくなるとか。それが減税のためであれば、庶民の味方どころか、我が身を売り込むための施策としか考えられません。敬老パスの『見直し』などんでもないことです」とFAXを送ってきました。田口議員は「減税の財源づくりに、市民に大事な施設がなくなったり、敬老パスが改悪されたらたまらない、という不安を募らせている市民は少なくない。敬老パスを現行通り維持すると断言せよ」と追及しました。市

長は「今の段階では言えない」と明言を避けました。

「行革で財源確保」はごまかし

市民税減税で、来年度は363億円の財源が不足し、さらなる「行革」などあらゆる手立てをとってもなお76億円が不足。市長は「減税財源は行革によって確保した」といいますが、「詭弁」です。歳入・歳出が22年度と同じなら言えませんが、歳入減、歳出増のもとでは収支不足が毎年発生します。田口議員は「大企業・金持ち減税」の財源づくりのために、事業仕分けの判定結果をお墨付きにして、高年大学や女性会館などを廃止する、敬老パスを見直すのか」と批判しました。



「民意」押し付ける「独裁」を懸念

「市長選挙で勝ったから減税は民意だ」と繰り返す市長。市民は、大企業・大金持ち優遇まで白紙委任していません。減税のために福祉の削減を認めたわけではありません。世論に耳を傾け、理解と合意に努力をつくす、議会での十分な審議をつくすことが大前提です。田口議員は「市民の意識が変化しようと、財政に収支不足がおきようと、『民意』の一言で公約を押し付けるやり方は、『民意』を騙った独裁政治になりかねない」と市長に忠告しました

27施設の集団補聴システムが科学館以外では生かされていない 磁気ループの設置を増やし・利用促進を

田口議員は、難聴の人たちのための集団補聴システムの一つである磁気ループについて質問しました。

高齢者の方などが、聴こえが悪くなくても社会参加を控えることなく、生き生きと暮らせるようサポートするために、専用の受信機がなくてもTモード対応の補聴器があれば聞くことができる磁気ループの設置を推進し、すでに設置してあるところは周知徹底し有効活用するよう求めました。局長は「集会室については設置のPRに努めたい。設置している施設の周知や公報は障害者施策の案内冊子に記載し、施設管理者には活用促進に掲示などを働きかけたい」と答えました。

名古屋市での集団補聴システム設置の施設（2011年11月）

システム	数	うちわけ
磁気ループ	19	区役所・支所（北、瑞穂、熱田、南、山田）、文化小劇場（千種、東、北、西、熱田、中川、港、守山、緑、名東、天白）、青少年文化センター、名古屋市総合福祉会館、科学館
赤外線	8	区役所（西、中）、中小企業振興会館、芸術創造センター、公会堂、福祉用具プラザ、高年大学鯉城学園、科学館
FM	1	すぎのこ学園（購入 園児用）
Bluetooth	0	
計	27	（科学館は2種あり）

集団補聴システム＝マイクの音声等を直接補聴器へ伝え、雑音の少ないクリアな音声を聞くことができる装置（図は磁気ループ）。

